

9.17(土)

講演会「この『この世界の片隅に』がすごい！」を開催しました。

講師に宝島社「このマンガがすごい！」編集長の菌部真一氏をお招きして、プロの視点から見た『この世界の片隅に』の魅力を語って頂きました。

①細かな設定や遊び心と映画への反映。

1つ目は作中に登場する小物や動物たちの描き方だそうです。作中で古い着物をもんぺに直す場面が描かれていますが、実はそれ以外にもたくさんの衣服が作中では着回されています。同じ柄をただ描くのではなく、空襲で焼けてしまった部分をきちんとつぎはぎをしてから着ているという風に描いているのです。この先生の工夫の細かさがすごい！アニメではそれがカラーになって再現されています。また、この先生は度々作中に動物を描いています。それが映画ではどのように描かれているかに注目です！

②実際の時間と一緒に流れる物語。

2つ目はマンガの中の時間経過について。「アクション」で連載されていた当時に原作を読んでいた菌部さん。現実の世界で7月であれば、『この世界の片隅に』の中でも7月。読者と物語の中のすずさんは同じ時を過ごすことになります。それにより読者は『この世界の片隅に』の世界により引き込まれていくのだそうです。

③本編だけでなくあとがきにも注目。

さらに3つ目は見落としがちなあとがきについてでした。『この世界の片隅に』の参考文献表やあとがきにもこの先生の遊び心が満載でした。「おもな参考文献」のページでは笹船を流す男の子と、それを追いかける女の子が描かれています。そして、一番最後の「あとがき」にはその笹船を受け取る女の子の姿が。この子たちはそれぞれ誰なのでしょう…？まだご覧になってない方はぜひ確かめてみて下さい。

菌部さん、参加者の皆様、ありがとうございました。

